

「美術科」学習指導案

1. 日時 平成26年 6 月
2. 場所 第 2 美術室
3. 学部・学年・組 高等部 第 1 学年
4. 単元名 「パターン画」
5. 単元目標 ①パターン画を学び、自分の表現につなげる。
②表現方法を学びながらそれを展開する。
③パターンの面白さを知り、集中力・持続力を養う。
6. 生徒観 略

7. 教材観

パターン画は、同じ形、同じデザインなどの繰り返しの表現で画面構成をしていくものである。単純な形でも繰り返すことにより、幅広く、個性豊かな画面に仕上がっていく。描写力に自信のない生徒でも、苦手意識をあまり感じずに取り組むことができる。また、継続性が必要な課題であるため、繰り返しの面白みを感じながら、表現力や持続力を養うこともできる。完成した時には大きな達成感を味わうことも期待できる。

使用する道具として、主に黒のサインペンと絵の具を用いている。今までに何度も使用を経験してきた身近なものであるため、大変扱いやすく、抵抗感なく取り組むことができる。カラーではなく黒ペンのみであるが、白い画用紙の画面に黒のラインがはっきり浮かび上がり、自身の描写の跡をしっかりと確認することができる。また、最後に好きな色の絵具を選んで塗ることも、楽しみの一つとして意欲的に制作できる。

8. 指導観

グループ内での表現力・理解力の差は幅広い。美術に対しての好き嫌い、得意・不得意も個々によりそれぞれである。その中でも、生徒たちが楽しく前向きに課題に向き合い、制作において困難があればすぐに聞き、解決できるような雰囲気作りを大切にしている。集中して取り組めるよう、座席にも配慮をしている。

指示理解ができ、一人でも取り組める生徒には、一人で集中して作業できるように席の位置や机上の環境などを配慮し、応用力を引き出せるようなアドバイスを行っている。支援の必要な生徒に対しては言葉かけの仕方を工夫し、意欲を引き出し、自信を持って表現力を高めていけるように努めている。

生徒が、楽しみながら自発的に制作できるということを、常に心がけている。

9. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
① 集中して描ける。 ② 積極的に制作できる。	① パターンを応用し、画面展開ができる。 ② 完成した作品の良かった点・頑張ったところなどを皆の前で発表し、それぞれの作品を認め合う。	① 丁寧にラインを描ける。 ② 絵の具を全面にきれいに塗れる。 ③ 様々なパターンの形を描ける。	① パターンについて理解できる。

10. 単元の指導と評価の計画（全18時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1～3	簡単な形のパターン練習				①
	4～6	折り紙を切り貼りした、パターン練習	②	②		
第二次	7～8	色々な形を組み合わせ、パターンの展開	①			①
	9～11	自分のオリジナルの絵と、パターンを組み合わせる		①	③	
	12	ポイント部分を黒く塗りつぶし、画面構成する。	②		①	
第三次	13～15 (本時)	下描きをし、ペンでなぞり、絵の具を塗る。	①		③	
	16～18	絵の具を塗り、ペンでなぞる		②	①	

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ①色々なパターンを組み合わせ、個性豊かな作品（下描き）を描く。
- ②自分の作品のイメージに合った好きな色の絵具を選び、画面全体に丁寧に塗る。
- ③完成図を意識しながら、下描きのラインを丁寧になぞる。

(2) 本時の評価規準

- ①パターンをうまく組み合わせ、画面構成ができる。
- ②自分の作品と向き合い、丁寧に集中して取り組むことができる。
- ③完成図をイメージして、制作に取り組む。
- ④用紙の全面に、刷毛や筆を使用して丁寧に絵の具を塗ることができる。

(3) 本時で扱う教材・教具

画用紙、鉛筆、黒サインペン、絵の具、筆、刷毛、皿

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の だて等	評価規準・評価方法
7分 導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○始まりの挨拶・出席 <ul style="list-style-type: none"> ・当番の生徒が前に出て挨拶する。 ・名前を呼ばれたら返事をする。 ○本時の活動内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始まりを意識し、前に出ている当番に意識が向くよう言葉かけを行う。 ・一人ひとりと視線を合わせて名前を呼び、生徒の状態を把握する。 ・本時の流れ、内容を黒板に板書し、説明する。 	
33分 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○画用紙、サインペンを配る <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がグループのみんなに配る。 ○画用紙の裏に、それぞれ名前を記入する。 ○鉛筆で下描きする。 ○下描きができたならペンでなぞる。 ○ペンでなぞれたら、絵の具で色を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ全員に道具が行き届いたか確認する。 ・書き忘れがないよう、声をかけて確認する。 ・どのように展開すればいいのか難しい時は、アドバイスをして一緒に考える。参考になるようなパターンを見せる。 ・色々な言葉かけをして、自信を持たせるようにする。 ・集中力がとぎれた時は少し休憩を促し、気持ちを切り替えられるようにする。 ・集中できるような言葉かけをする。 ・何色もある中から、自分で絵の具の色を選ぶ。 ・全面を塗るように説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の画用紙、作品を意識することができる。 ・一人で、もしくは一緒に考えることでパターンを展開し、画面構成ができる。 ・集中して丁寧に描くことができる。 ・下描きの上をはみ出さずになぞることができる。 ・完成図をイメージして色を選ぶことができる。 ・丁寧に塗ることができる。
10分 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○道具、作品の後片付け <ul style="list-style-type: none"> ・自分が使った物や、周りの物を片づける。 ○活動を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ作品を前で発表する。 ・次回の予告を聞く ○終わりの挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・当番の生徒が挨拶する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が使った物だけでなく、周りの物も片づけるよう促す。 ・できた作品を皆に認めてもらうことで、達成感を感じ、自信を持ち、意欲につなげていけるようにする。 ・授業の終わりを意識できるように言葉をかける。 	

(6) 教室配置等 略

*備考

◇当該教科・領域の年間指導計画 略